ヒマラヤの雪崩遭難

山歩きを楽しむ人たちにとって、世界の最高峰を眺めてのヒマラヤトレッキングは夢のような山旅である。そのルートを季節はずれの大雪と雪崩が襲った。チョモランマ(エベレスト)南西のゴーキョ峰近くで発生した雪崩に巻き込まれて日本人の中高年トレッキンググループやシェルパなど二三人が遭難し、カンチェンギンガ方面でも遭難者をだして、ヒマラヤ登山が一般に開放されて以来の最悪の遭難となった。

この季節のヒマラヤは夏と冬のモンスーンの交代期の乾季にあたり天気は安定し、4000メートル付近でも積雪もなく気温も日中には一〇℃を超してヒマラヤトレッキングに最適の時期といわれている。ところが今年は偏西風の南下が遅れ、ベンガル湾で発生した台風の仲間であるサイクロンが、例年は早めに東に進路を変えてミャンマー方面に進むはずが西よりに進んでインド大陸に向かってしまった。

ひまわりの写真や上空五・八キロメートル付近の五〇〇hPaや上空3キロメートル付近の七〇〇hPa天気図で経過を追ってみると、サイクロンの北東側から湿った気流が北上してきたところに、たまたまヒマラ果、湿った気流が雨季の頃のようにヒマラヤ山脈に吹きつけ、乾季で好天が続きのあと天候は急激に悪化し、十一月九日から一〇日にかけてこの地方として季節はずれの大雨や大雪が短時間に降ってしまった。

高層の天気図から推定すると、高度四キロメートル付近が零度で雨と雪の別れ道なって生死をわけた。標高一三〇〇メートル付近の首都カトマンズでは大雨だったが、四〇〇〇メートル級以上のトレッキングルートは氷点下数度以内のミゾレ混じりの湿った大雪となった。ニュース映像を見ても新雪が二ー三メートルところによっては数メートルも積もっているのがわかる。

同時に放映された昨年の同時期の雪のない写真とあまりにも対照的でいか今年の天候が異常であったかを物語っていた。湿った雪が急激に積もると、雪はなじまずに新雪の表層雪崩が底雪崩のようにズリ落ちて襲って来る。夢のヒマラヤの山歩きが、想像外の自然の猛威のなかで暗転してしまったのは悲しみに耐えない。

村松　照男)